

同志社大学司書課程・司書教諭課程主催

2019年度図書館見学会および見学記

(日程)

11月27日 (水)

13:00 高知駅集合
14:00-18:00 オーテピア高知 見学

11月28日 (木)

午前 移動
13:00-15:00 梶原町立図書館 (雲の上の図書館) 見学
(オプション)
17:00-18:00 松山市立図書館 見学

11月29日 (金)

10:00-12:00 今治市立図書館 見学
14:00-15:30 西条市立図書館 見学

図書館見学記

文学部国文学科 御前友実

11月27日(水)から11月29日(金)まで、高知県・愛媛県にある図書館を訪れる四国地方図書館見学会に参加しました。

1日目はオーテピア高知に伺いました。2018年7月に完成された複合施設で、1階はオーテピア高知声と点字の図書館、2・3・4階はオーテピア高知図書館、5階は高知みらい科学館の構成となっています。バリアフリー、ユニバーサルデザインのコンセプトから、館内全体誰もが利用しやすい環境であることを意識していました。中核のオーテピア高知図書館は、高知県立図書館と高知市民図書館本館を合築した図書館の通称であり、独自の取り組みもされていました。例として3階は、健康・安心・防災スペースとビジネス・科学・産業・農業スペースを設け、高知県の課題である分野の改善を図書館が支援する姿勢が見られました。また、館内での会話を制限しておらず、落ち着いて読書をしたい人向けに静寂読書室を完備した従来の考え方に縛られない開放的な空間であったことも印象的でした。

2日目は梶原町立図書館(雲の上の図書館)を訪問しました。2018年5月に完成された施設で、人・本・文化を繋ぐ架け橋となるような『わくわくする図書館』を目指しており、設計を隈研吾氏が手がけています。町面積の91%を森林が占めていることから、可能な限り町産の木材を使用し、内部は森の中を表現するため木が林立するよう整備するなど、木の特徴を活かした温かみのある館内でした。幅広い年齢層がひとつの空間を共有するため、図書館には子どもが楽しめるボルダリングスペースの内包、お年寄りの方の複合福祉施設を併設しています。いろはにほへと順の配置、カメレオン(カラー)コードの導入といった他の図書館にはない珍しい取り組みとともに、カフェのあるゆったりとくつろぐことのできるラウンジ、子育て相談といったワークショップを定期的で開催するなど、出会いと交流を大切にしている点が伝わって

きました。

3日目は2つの図書館を見学させていただきました。午前中は今治市立中央図書館に伺いました。今治市立図書館として、中央図書館・波方図書館・大西図書館・大三島図書館があり、図書館のない離島には移動図書館車ぶっくるによって市民に本を届ける活動をされています。館内は本の広がり意識した曲線を多用する構造となっており、ベンジャミンの木が3本、施設内に植樹されています。また、年1回著名作家による講演会を開催しているとのことでした。対照的に、マイクロフィルムや郷土資料用のカード目録、戦後の歴史が窺える展示といったかつての名残も感じられ、まさに温故知新が共存する場となっていました。

午後からは西条市立西条図書館に伺いました。水と緑が調和した市街地をガラス越しから一望できるエントランスホールをはじめ、まちと一体になった仕掛けを施していました。例えば新幹線の生みの親として知られている十河信二氏に関連して鉄道関係の書籍を数多く展示するなど、西条市の魅力を伝える情報発信拠点としての機能を果たしていました。また、自動化書庫システム、ICゲート、自動貸出機、太陽光発電といった新システムの未来型図書館の先駆けとしても運営していました。開館時間を13時間とすることや他館と比較して休館日を少なくすることといった、利用者が気軽に訪れたいくなる工夫もされていました。

今回の図書館見学ではデザイン性に優れた図書館が中心でした。本来図書館は資料の存在が重要ですが、利用者が利用しやすい場になることも図書館に求められていることを実感しました。ご協力くださった図書館の皆様、先生方によって、今後の学生生活に活かしていくことのできる有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。